

## 令和7年度 府立北桑田高等学校 美山分校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン)

( 実施段階 )

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>1 時勢の変化と教育に対する社会的ニーズの推移に対応し、専門教科・普通教科の学習を通して、基礎学力及び進路目標に応じた学力・能力を身につける。</p> <p>2 働きながら学ぶことを基本とし、規則正しい生活習慣と生きる力の充実を図る。</p> <p>3 特別活動等を通して地域とかかわり、地域後継者の育成と地域文化を支える豊かな心の育成を図る。</p>	<p>〔成果〕</p> <p>1 基礎基本の定着に重点を置いた授業を展開し、学習成果発表の機会を多く設けて生徒の学習意欲の向上につなげることができた。</p> <p>2 ホームページの一部を修正し、見やすく分かりやすい構造に更新することができた。</p> <p>3 地域人材による専門的技術の指導や、校内での資格取得講座の充実により、両学科の資格取得を促進することができた。</p> <p>4 専門教科において、課題となっていたICT機器の活用について、実習や探究活動での使用頻度が高まった。</p> <p>〔課題〕</p> <p>1 専門学科の特色ある取組の広報</p> <p>2 専門学科の学習に係る資格取得に向けた取組の継続</p> <p>3 授業における情報機器の効果的な使用</p> <p>4 ホームページの更新頻度</p>	<p>1 学習用端末の活用に関わって、教材・指導方法の工夫改善について研修を活用し、充実を図る。</p> <p>2 専門学科の資格取得について、授業を利用して受験を勧め、補習を実施し、より高い級位の取得者の増加を目指すとともに、キャリア意識の向上を目指す。</p> <p>3 小論文指導や面接講座など生徒のニーズに応じた適切な教育的支援を行い、進路実現を図る。</p> <p>4 働きながら学ぶという目標のもと、就労を通じた社会性獲得を図る。</p> <p>5 個に応じた充実した支援・指導のため、関係機関や医療等の連携を継続し、プラットフォームとしての機能を果たす。</p> <p>6 専門学科の特徴的取組や部活動、学校行事について、ホームページやパンフレット等を用いて積極的に広報する。</p> <p>7 安心安全な学校づくりを進める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	組織的、計画的な指導体制を確立する。	経営計画の課題に基づく研修計画を策定し、校務運営に反映させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>改訂した内部規定については、各分掌・教科の確認を経ての施行であったことから、円滑に移行できていることが、校内調査により確認できた。</li> <li>職員会議や事務連絡においてICT活用によって迅速に情報共有することができた。また、ホームページの更新頻度を向上させて効果的に広報することができた。</li> <li>探究活動の内容を充実させることはできたが、成果の発信には課題があった。</li> </ul>
		改訂した内部規定に基づく校務運営を進める。	A		
	教職員の資質・能力の向上を図る。	校務や学校運営における課題解決のため、計画的な研修を実施して課題解決能力の向上を図る。	A	A	
		探究活動の指導について課題を整理し、改善策を検討する。	B		
業務の見直しを図り、負担軽減を促進する	ICTを活用した効果的な情報共有や広報について検討し、改善を図る。	A	A		
教育課程	学校の特色を生かした教育課程の編成	学科に応じた特色ある教育課程を編成する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力をいかに定着させるかという点を中心に、生徒の状況に対応した教育課程を計画し実施することができた。</li> <li>学習指導要領の趣旨が生かされるように教育課程を編成した。</li> <li>進路実現のため等で、応用的学力の伸長が必要な生徒に対しては、教科ごとの個別指導で対応しているが十分ではない。</li> </ul>
		生徒の基礎学力の定着を可能にする教育課程を編成する。	A		
		生徒の進路実現に向けた教育課程を編成する。	B		
	新学習指導要領に則した教育課程の編成と観点別評価の実施	新学習指導要領が導入されて5年目になる本年度においては、最新の情報を入手しつつ効果的な編成ができるよう努力を継続する。	A	A	
最新の情報を入手しつつ、観点別評価がより適正に実施できるよう努力する。		B			
教科指導	各教科の目標を明確にして、計画的な指導を実践する。	シラバスにおいて年間計画を提示し、それに基づいた計画的な指導を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初にシラバスを作成し、それに基づいて計画的に教科指導を行った。</li> <li>公開授業を通じて教科担当者間の交流を図り、教科指導力の向上に努めた。</li> <li>年間指導計画の学期ごとの見直しについては、現状、担当者の自主性に委ねられている。</li> </ul>
		授業公開を通して課題を明確にし、さらなる授業改善を図る。	B		
	個々の生徒の学力を充実させる。	個々の生徒の学力、理解の程度を把握しつつ、定期的に指導計画の点検と見直しを行う。	B	A	
		学習習慣の確立や基礎事項の反復等、基礎学力の定着を目標にさらに工夫をする。	A		

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
特別活動	計画的で充実したホームルーム活動を実施する。	4年間を見通したホームルーム活動の指導計画のもと、ホームルーム経営の改善・工夫に努める。	B	B	・生徒会幹部役員が自発的な行事運営を行い、生徒指導部が所管する行事が成功を取っていて、生徒の成長の一助となっている。全体的に生徒数が減少しているものの、生徒会活動や局会活動など、生徒の意気が高揚している。
		他学年や各分掌と連携しながら、各学年の生徒状況に応じた、適切なホームルーム内容になるよう努め、教科の狭間を埋める学習活動を実践する。	B		
	主体的な生徒会活動や創意工夫した学校行事を計画、実施する。	生徒の意見が反映された学校行事になるよう創意工夫をし、行事を通して生徒が満足感、達成感を感じられるような生徒主体の学習活動を実践する。	A	A	
		生徒会や各局の日頃から活動を通して、生徒同士や教職員とのつながりを深め、よりよい学校生活にする。	A		
進路指導	「働きながら学ぶ」を実現できるように指導する	就労先と連携し、課題があれば課題改善に向けた取組を行うなど、就労の継続を目指す。	A	A	・4年生の進路は担任とともに本人・保護者に対して、丁寧な面談を行い卒業予定者全員の希望進路実現ができた。 ・支援を要する生徒の進路決定に関して、外部の支援機関と連携しながら、卒業後も安心して生活ができるように、支援体制の構築がおこなえた。 ・アルバイト未就労生徒を対象に、就労体験実習を実施するなど、アルバイト就労につながる取組を行い、3年生では就労率が100%となった。
		不就労生徒へ就労へ向けての意識付け等の取組を行う。	A		
	自己の能力と適性を把握して希望進路の実現を目指す	生徒個々に対応した進路指導を行い、卒業予定者全員の進路決定を目指す。	A	A	
		支援を要する生徒の進路を関係機関と連携を促進する。	A		
		下級生の進路意識の高揚に努める。	B		
生徒指導	問題事象の未然防止や早期発見ができる体制を構築する。	規則を順守させ、規範意識を定着させる。また交通安全への指導を行い、交通事故の未然防止に務める。	B	B	・規範意識定着・規則遵守をさせることはできなかった。交通事故も発生し、計画を達成したとはいいいにくい。 ・いじめ事象の発生・認知、盗難事象等は発生しておらず、落ち着いた。
		各分掌や教職員と連携を密にし、生徒の状況把握に努め、問題事象の未然予防や早期発見につなげる。	B		
		学校外で問題事象がおこった場合、地域や関係機関と連携し適切に対応するよう努める。	B		
	信頼、思いやりに基づく人間関係の育成に努力する。	相手を思いやる気持ち、他者を配慮する気持ちを育み、信頼に基づく人間関係を築くように指導する。	B	B	
		いじめや他人を傷つける行動・言動を撲滅するため、人権教育と連携し指導にあたる。	B		
		あいさつの励行、適切な言葉づかい、適切な服装の着こなしができるよう指導する。	B		
人権教育	互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重する感性と、主体的に考え、解決しようとする態度・能力を育成する。	生徒の社会的自立に向けた支援のための学習を計画的、組織的に実施する。	B	B	・年間計画通り人権教育を行うことができた。人権意識を高める指導は、各授業の中でも行われており、一定の効果があるように感じる。 ・本校と合同の教職員人権研修は、ほぼ全員の参加があり、事後のアンケートから有意義な研修会であったことが伺えた。 ・人権意識が低い生徒もいるので、生徒の人権意識を高められるような取り組みを増やしていくことがこれからの課題である。
		全ての生徒に人権問題についての理解や認識する力をつけ、実践的態度を育てる学習を行う。	B		
		人権教育の科学的認識を系統的に育てるため、教科学習の指導を充実させる。	B		
		人権教育について、教職員の指導力を高める取り組みを行う。	A		

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
健康・安全教育	生徒自らの健康管理能力を高める。 支援が必要な生徒の適切な支援をする。	生徒一人一人と丁寧に関わり、生徒の自己理解を促し、生徒自身が心身の健康について自分でコントロールする力とともに、困り事や自分で解決しにくい問題について周りに助けを求める力を身につけられるように指導する。	A	A	・定期的に生徒の近況を交流することで生徒理解が深まり、教科学習などの学校生活全般で状況に応じた関わりにつながっている。 ・生徒は学年が上がるにつれ経験を積み、活動の幅を広げながら、自信をつけている。卒業後を見据えて、自己理解を深めることや、心身の健康をコントロールする力、状況に応じて周りに助けを求める力をつけることが課題である。 ・関係機関との連携や研修会を持つことができた。さらに個に応じた支援・指導を充実させたい。
		保護者、関係機関と連携をとり、教職員全体で生徒の特性について共通理解を図り、それぞれの生徒の特性に合った支援により、生徒の能力を最大限引き出せるようにする。	B		
施設・設備管理	施設設備の状況について情報共有に努め、安全安心な教育環境を維持する。	危機管理施設、設備の定期点検を実施して危機対応に備える。	A	A	・教職員玄関や東屋の改修など、継続使用に課題があった施設の改修が実施でき、安全・安心な教育環境維持に繋げることができた。 ・各部・分掌からの施設設備の要望について、丁寧に聞き取り、改善に繋げることができた。
		教育職員との連携による適切な教育環境の維持や環境改善に努める。	A		
		施設設備の使用や改善に関して、効果的な経費の配分を行う。	A		
農場部	農業に関する専門知識や技術の学習を通して、知識や思考力を身につける	座学では、農業に関する知識の蓄積や、科学的な考察のしかたを学ぶ。また、実験・実習を通して体験的、実践的な農業教育を展開する。	B	A	・生徒個々の特性を理解・考慮しながら、授業内容を検討し、適切な実験実習の指導を行うことができた。 ・実験実習や座学において効果的な作業・実験をすすめるための丁寧な説明を行うようにしてきたが、生徒の理解度を深めることはむずかしかった。 ・各学科分掌と連携をとりながら、生産・行事運営に取り組むことができ、地域への貢献もできた。 ・農ク活動の活性化や生徒の資格取得に注力し、教育長表彰の受賞数増加につなげることができた。
		実験・実習を通して、集団内での連携・協調を促し、将来へつなぐ活動の実践を展開する。	A		
		学年・生徒ごとの実態に応じた学習内容を検討し、指導方法を工夫する。	A		
	校外で連携を推進し、地域に貢献する意欲と能力を育む	農業クラブ活動（競技会成績・資格取得・関連行事等）の活性化を目指す。	A	A	
		農場生産物の品質向上を目指すとともに販売を積極的に行い、地域への貢献を促進する。	A		
		家政科との連携し、美山分校の教育活動全般を活発化させる。	A		
家政科	家庭の生活やそれに関わる産業に関する知識・技術の習得と主体的・実践的な態度を養う	個々の適性に合わせた指導法、教材を研究し、専門的知識と技術の定着につなげる。	B	A	・個々の適性に合わせた指導法、教材を導入したが、専門的知識と技術の定着には不十分であった。 ・外部講師を活用し体験的かつ専門的な学びの機会を多く設定することで、生徒の興味関心を高め、深い学びにつなげることができた。 ・課題解決学習を取入れ、主体的に学ぶ態度や達成感につなげることができた。今後も課題解決型学習を取り入れられるように進めたい。 ・今年度より課題研究は地域とのつながりを取り入れた題材を扱うことができた。今後も地域課題に着目した学習を取り入れていく。 ・今年度より課題研究において持続可能な社会の実現をテーマの一つとして掲げ、学習を展開することができた。今後はすべての教科において持続可能な社会の実現を考えられる学びにしていく。
		外部講師を活用した体験的かつ専門的な学びの機会を設定する。	A		
		課題解決的な学習を通して、主体的に学ぶ態度を育て、生徒一人ひとりの達成感につなげる。	A		
	学習したことを活かし、自分や家族、地域のより良い暮らしにつなげる意識を育てる	農業科と連携し、地域とつながり、地域社会の活性化に貢献する取組となるようにする。	A	A	
		持続可能な社会の実現について深く理解し、学んだことを実践し、発信する力をつける。	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
第1学年	基本的な生活習慣や社会的マナー、学習習慣の定着を図る。	授業に集中できる学習環境を整え、学習習慣を身に付けられるように支援する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習面、生活面ともに、相互に確認しながら進めることができた。特に、週の予定や調査範囲を確認し、見直しを持って学習できるように進めることができた。</li> <li>学校行事やHR活動を通じて仲間意識が芽生え、主体的に取り組もうとする姿がみられた。</li> <li>今後は身についた学習習慣を継続させるとともに、長期的な目標を持って学習に取り組む姿勢が求められる。また、農業クラブや生徒会活動、就労などを通して社会性を育むことも大切にしたい。</li> </ul>
		あいさつや身だしなみなどの社会的マナーを身に付けられるように指導する。	A		
	今後の高校生活への展望を持たせる。	見直しを持って充実した学校生活を送れるように支援する。	B		
		生徒会活動や部活動、クラブ活動への積極的な参加を働きかけることで、今後の高校生活の目標を見つけられるように支援する。	B		
第2学年	高校生としての自覚を持たせることを重点とし、基本的な態度・マナーの定着を目指す。	基本的な生活習慣を身につけるためのソーシャルスキルトレーニングを行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣（整理整頓、片付け、挨拶、清潔など）を身につけるためのソーシャルスキルトレーニングを行ったが、完全に身につけるには至らなかった。今後も継続して行く必要がある。</li> <li>面談の機会を学期に1回以上設け、個々の生徒の実態や発達段階に応じた支援・指導を行った。</li> <li>行事などクラス単位の取組みの中で協力することはできたが、他者への思いやりに欠ける部分もあった。今後他者との協働ができる人間性を高めていく必要がある。</li> <li>学習や学校行事の取組みなど周囲と協力してものごとに取り組む機会を多く設けることができた。</li> </ul>
		個々の生徒の実態や発達段階に応じた支援・指導を行う。	B		
	他者との関わりを通して、より良い人格形成を目指す。	集団の一員としての自覚を持ち、自己の役割を全うするだけでなく、他者を思いやり行動する態度を養う。	B		
		日々の学習や学校行事の取組を通して、周囲と協力して物事に取り組む機会を設ける。	A		
第3学年	他者との関わりを通して、社会人として必要な資質や基本的な態度やマナーを身に付ける。	生徒一人一人の特性や発達段階に応じて、個々の生徒が活躍できる機会を設ける。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊学習や文化祭等の学校行事を通し、生徒主導でのグループ活動の機会を多く設けることができた。自主自立的な活動を通して人との関わり方や集団での役割について体験的に学ぶことができた。</li> <li>就労について考える機会を多く設け、全員が就労につくことができた。</li> <li>卒業後の進路実現について、HRや定期考査ごとの面談を通じて考える機会を多く設け、進路希望の具体化に努めた。しかし、まだ進路に関して十分に考えることができていない生徒もいるため、指導を継続したい。</li> </ul>
		グループ活動を設け、自主的・自律的な活動を促す。	B		
		就労を促し、実社会に関わる機会を設ける。	A		
	卒業後の進路実現を見据え、自己理解を深める。	生徒が卒業後の進路を意識できるように、キャリア教育の充実を図る。	B		
生徒が客観的に自分自身を理解するための取組を行い、進路選択につなげる。		B			
第4学年	自分を見つめ、自分の能力に応じた目標を定め、進路実現できるように指導する。	自己理解を深め、自分の持つ能力や個性に応じた目標を定め、進路実現できるよう指導する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標や将来設計を具体的にイメージさせるよう指導し、希望の進路の実現を達成できた。</li> <li>進路決定までの計画を作成し、段階的に進路指導を進めることで試験対策や書類準備に自主的に取組ませる事ができた。</li> <li>主体性については生徒によって大きく差が出たため、トリアージによって関わり方を決定すべきであった。</li> <li>卒業後に向けた規範意識の確立をめざし、HRでの講話を増やした。また、生徒の状況に応じて個別でのアプローチも実施し効果を得たが、個別対応の必要性の判断には課題が残った。</li> <li>学校生活を通して最高学年としての振る舞いを意識するよう指導し他学年との良好な関係構築を目指した。学校行事で他学年の模範となり行動できる生徒が増加した。</li> </ul>
		日々の学校生活を通して、社会人として必要な知識やソーシャルスキルを身に付けられるよう指導する。	B		
		進路実現に向けて、主体的に考え行動できるよう指導する。	B		
	人との関わりや学びを通して、よりよい人格の形成を目指す。	社会人としての自覚を持つとともに、規範意識を確立できるよう指導する。	B		
最高学年として学校全体のことを考えて行動できるよう指導する。		A			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
国語科	国語の知識や技能の定着を図り、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高める。	社会生活に必要な国語の知識や技能の定着を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学び直しの取組みを行い、生徒個々の課題を明確化するとともに、進路実現に向けて読み書きの基礎力向上を計画的に実施することができた。</li> <li>国語表現の授業、生活体験発表会の作文作成、農業科の意見発表の機会を活用し、作品発表も行って客観的な評価を得て、主体的に学ぶ態度の醸成につなげることができた。</li> <li>資料提供や作品提出、作品の評価やアイデアの具体化などにより効果的な授業展開を行うことができた。</li> </ul>
		小論文指導の充実をさせ、生徒の作文へ対する苦手意識を軽減を図る。	A	
		ICTを効果的に活用した言語活動の充実を図り、生徒が主体的に学習に取り組めるような工夫を施す。	A	
		図書館を充実させ、読書習慣の定着を図る。	B	
数学科	生徒一人一人の学びや考え方を尊重しながら、基礎学力の向上を目指す。	各単元で必要とされる基礎知識を復習してから授業に入るようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が高校数学を理解し易いように、予備知識を補強した上で授業に入るようにした。全時間プロジェクターを使うようになった。</li> <li>理解不十分な生徒に対しては個々の弱点等を把握し効果的な指導を心掛けた。</li> <li>授業内容の難易度が上がると集中力が途切れる生徒がいるが、教材の作成等と更なる工夫が必要と感じている。</li> <li>全学年が各自タブレットを持つことになったが、練習問題の回答を配付するぐらいで、タブレットを生かして切れていない。</li> </ul>
		プロジェクターを利用して視覚的にも分かり易い授業を行う。	A	
		考える時間や演習を多く設け、生徒が受け身にならないように配慮する。	B	
		理解が不十分な生徒には個別指導を行う機会を設ける。	B	
保健体育科	生涯を通じて、継続的に運動できる能力や自らの健康を管理・改善していく資質を育てるとともに、運動技能の向上や健全な心身の発達を目指す。	体育の学習を通して、体力や運動技能を向上させるとともに、運動に対する知識理解を深める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育では、個々の技能に応じた目標設定を行い、その達成に向けた課題解決に取り組むことができる生徒が増えた。しかし、一部には、苦手な種目と向き合えずに活動量が減ってしまう生徒がおり、次年度の課題である。また、ゲームの運営や準備片付けについてはそれぞれ与えられた役割を全うし滞りなく学習を進めることができた。</li> <li>保健では、学習内容を既習事項とも関連させながら実生活に生かす方法を考えることが一定できた。しかし、学習内容によっては自分のこととして上手くとらえることができず、自己の課題に対して合わない解決方法を記述している場面も見られたため、今後は学習段階でそれぞれが自己の課題として向き合えるような学習展開を構築していく必要がある。</li> </ul>
		体育の学習を通して、公正、協力、責任などの態度を育てる。	B	
		保健の学習を通して、健康で安全な生活を送るための基盤を養う。	B	
		保健の学習を通して、環境問題・健康問題についての課題を発見し、その解決に向けて思考し判断することができる力を身に付け、実生活に生かせるようにする。	B	
		レポート作成の課題を通して、環境問題や健康に対する知識理解を自ら深めるとともに、他者に伝える力を養う。	B	
英語科	中学校での学習を土台にしながら、多様な言語活動の有機的な関連を図った指導を実施し、実践的コミュニケーション能力を育成する。	聴く、読む、話す、書くという四技能をバランスよく学習させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語指導助手との授業において、外国の文化等についての理解を深める授業を行えた。</li> <li>重要な項目を繰り返し学習することで、基礎力の定着を図った。また、理解をできるだけ容易にするため、教材の工夫に努めた。</li> <li>進路実現などのため応用力の伸長が必要な生徒については個別指導を実施しているが、不十分な側面がある。</li> </ul>
		言語だけでなく、外国の文化についても理解を深める。	A	
		英語指導助手と連携しながら、充実した英語学習を進める。	A	
		必修の授業では、基礎力の定着に焦点を当てる。	A	
		選択の授業では、進路実現も視野に入れ、応用力の伸長を図る。	B	

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
家庭・地域社会との連携	地域人材や企業、保護者への教育実践の公開や連携によって、生徒の自己有用感の向上を図る。	面談、家庭訪問、学校行事等の機会を活用し、家庭・保護者との連携を深める	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門学科において、専門家を招聘した授業の内容を見直し、専門技術の効果的な習得と生徒の意欲・関心の向上につなげることができた。</li> <li>・育友会の各行事について、内容、規模を精査し、運営の負担や経費の軽減を行うことができた。</li> </ul>
		地域人材や企業との連携により、専門教科の指導充実を図る。	A		
		育友会の事業について、事業継続と経費負担の軽減に努める。	B		
学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業料無償化の影響は大きいと思われるが、生徒募集の努力をしていただきたい。</li> <li>・中学校の先生方に美山分校を知っていただく機会を増やした方が良い。</li> <li>・美山分校の環境だからできることがある。それを(日本茜や野菜苗販売など)を積極的に行っていると感じられた。もっと高い評価をつけて良い。</li> <li>・先生方のメンタルヘルスにも配慮して欲しい。</li> <li>・SNSも併用し、積極的な情報発信をした方が良い。道の駅に苗物や製品を出荷しているなら、POPの工夫やSNSの導入をやって欲しい。</li> <li>・地域の求人に応じる人材の育成を期待している。</li> </ul>				
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門学科の魅力的な取組の促進と地域・中学生への広報</li> <li>・ソーシャルスキルの獲得を目的とした生活・学習指導の充実</li> <li>・効率的な校務運営のためのICT活用</li> <li>・多様な課題を持つ生徒の情報共有と、支援体制の充実</li> </ul>				